

第7回市民活動支援センターのあり方検討委員会 会議概要（会議録）

平成30年1月29日（月）13時～

茂原市役所1階102会議室

1. 開会
2. センターのあり方に関する提言書（案）について（その1）
3. その他

開会	（事務局 風戸）
これまでの ふりかえり	（事務局 風戸）前回のワークショップの振り返り、まちびと カフェの開催について、提言書案について
ワークショ ップ	テーマ「センターのあり方に関する提言書（案）」について、グ ラフィックファシリテーション（板書）に基づき対話（以下の とおり）

第7回市民活動支援センターのあり方検討委員会 ワークショップ結果

○「現状」と「ありたい姿」の間の「ギャップ＝課題」の解決のために、そもそも市民活動支援センターが解決手段となり得るか（原点に立ち返って）

・現状…高齢化、ボランティア不足、資金不足、場所がない、横のつながりがない、つなぎ役・調整役・受け止め役・フォロー役が不在、アイデア不足、PR不足、まちづくりの当事者としての意識が不足。実行する人はいるが、放置されたまま

・ありたい姿…楽しく元気に活動、若い人が参加、会員増、意欲増、活動資金の獲得、情報がワンストップで得られる、寄附文化の浸透、リーダーをサポートする集団、社会貢献・自己実現（自分ができることで役に立ちたい）

・市民活動支援センターの役割…情報、コーディネーターの育成、行動に移すハードルを下げる、つなぎ役

○市が良くなれば、自分の暮らしが良くなる

・今までは市が実施したり、市が補助金を出したりしていた

・「良くなる」とは…福祉、安全安心、文化等が充実すること→「市民活動」

・「自分の暮らし」…地域が良くなる。子どもたちには郷土愛とボランティア教育を。大人にもボランティア教育を。

○志縁を地縁に結びつける

- ・地縁…地域に根ざした活動（自治会等）
- ・志縁…想いで結びついた活動（市民活動、NPO 等）
- ・志縁と地縁の結びつき…地縁団体が志縁団体を承認する 志縁と地縁の結び目を市民活動支援センターがつくる
- ・自治会とボランティア・市民活動団体の結びつき。地区社会福祉協議会や地域まちづくり協議会などの連携→「地域コミュニティ」
- ・自治会にボランティアの要素を取り入れる事例が増えている…できる人・やりたい人を集める
- ・「自治会のあり方検討委員会」も必要ではないか

○まちびとカフェ 2月25日（日）開催

- ・市民活動団体の紹介…シビックテックもばら「つながりによるまちづくり」（1月13日開催済）、協働提案事業「ウォークゴミ0ボラエモン」（そくと仲間たち）、「農業と消費者をつなぐシンポジウム」（まちづくり茂原市民ネット）
- ・ワールドカフェ（意見交換）…自治会、ボランティア団体、市民活動団体、地区社会福祉協議会等

○前提と今後のまちづくり

- ・現状の把握→課題の抽出→まちづくり条例の制定
- ・今後のまちづくり：参加する権利・義務
- ・一人ひとりがまちづくり あなたもその一員：行動提起、アクション

○センターの目指すもの

- ・住民の気づきとともに考え、ともに行動し、解決の道筋を探る
- ・「ないもの」ではなく、あるもの、できることに注目→埋もれているもの
- ・資源の掘り起こし 市内に今ある資源→新しい活動の掘り起こし

○機能性

- ・市民参加のもと、協働のまちづくり→主役は市民、センターが市民の行動を促す

○相談対応

- ・多くの来場
- ・内容を的確に把握

- ・自己決定に向けた支援力
- ・傾聴的態度
- ・熱意や知識
- ・センターの知恵袋 アドバイザー・経験者…組織に位置付ける
- 調査・情報収集
 - ・関心→問題意識
 - ・解決のための糸口 見逃さずにキャッチ
- 編集・発信
 - ・さまざまなツール PC、チラシ、キャッチコピー
 - ・読み手と共感
- コーディネート・ネットワーキング
 - ・人、もの、資金をつなぐ
 - ・自治会・ボランティア団体・市民活動団体
 - ・つなぎ役 一つのチームとして支援
 - ・逆転の発想→視点を変える 先進例（ヒント）を学ぶ
- 人材
 - ・熱意と行動
 - ・さまざまな経験
 - ・本人の自己研さん
- 政策提言
 - ・スタッフが政策提言できる力量
- 早期の設置
 - ・30年度 現状を踏まえてなるべく早い時期→機能面のみ先行実施
- 会議室→オープンスペース いろいろな使い方
- 運営方法
 - ・外部 or 直営
 - ・メリット・デメリットの表現
 - ・根拠→事実関係 手法